

# 美なみたま

都立南多摩高校〔府立第四高女〕同窓会 あかね会広報特別号



2010年特別号

2010年5月1日

発行：都立南多摩高校同窓会・あかね会  
発行者：黒須 隆一  
〒192-8562 東京都八王子市明神町4-20-1  
都立南多摩高等学校内 電話：042(642)2431  
<http://www.akane-kai.org>



母校に聳えるクスノキ、正門には南多摩高等学校と南多摩中等教育学校の2つの門標が並ぶ。左写真は中学1年生と高校生がいっしょに登校する今年の入学式。

## ご挨拶

南多摩高校同窓会・あかね会会長 黒須 隆一 (昭和35年卒)

同窓会あかね会の広報紙『美なみたま』の発刊にあたり、一言ご挨拶を申しあげます。

会員の皆様には、日頃から「あかね会」の活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

都立南多摩高等学校はこの4月から、中高一貫6年制学校として新たなスタートをいたしました。私はかねてから、子ども達が自らの可能性を信じ、夢と希望を胸にのびのびと学べる教育環境の整備に、人一倍力を注いで参りました。それは、どの時代にあっても、子ども達はしっかりと未来を見つめ、元気に成長していくかなければならないと考えているからであり、この中高一貫教育が、生徒の持つ能力や感性を、一人ひとりの成長にあわせ

引き伸ばす最良の教育形態になるものと大いに期待しております。

同窓会としても学校と一緒に連携を図り、「都立南多摩中等教育学校」が名実共に多摩を代表する学校となるよう応援していきたいと思いますので、会員の皆様の更なるお力添えをよろしくお願ひいたします。

末尾ではありますが、広報紙の発刊にあたりご尽力くださいました関係者の皆様にお礼申しあげますとともに、会員の皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念し、私のご挨拶とさせていただきます。



5月16日(日)は「あかね会」総会の日です 最終頁をご覧ください

# 都立南多摩中等教育学校の開校について

都立南多摩中等教育学校 副校長 大熊 一正

## 1 はじめに

いよいよ平成 22 年(2010) 4 月に南多摩中等教育学校の開校を迎えます。あかね会からは、開校にあたって様々なご支援とご協力、また励ましをいただきありがとうございます。

都立高校全体の改革の中で、東京都が中高一貫教育校の都内 10 校の設置を決めて 8 年が過ぎました。この間、6 校の中高一貫教育校(白鷗、両国、小石川、桜修館、武藏、立川国際)が先行校として開校し、中高一貫教育校に対する都民の理解と期待も大きくなっていました。設置にあたっては、旧都立高校の学区を参考に都内全域にわたって設置することを原則として計画が進められ、本校は南多摩地域の中で中高一貫教育校へ移行することとなりました。

今回、南高同窓会広報紙『美なみたま』の発行にあたって、南多摩中等教育学校が目指していること、また、それにともなう、これから母校の変化についてお知らせします。

## 2 南多摩中等教育学校が目指す教育

本校が目指す教育理念は「心・知・体の調和」であり、「人間力の南多摩」として南多摩高等学校が進めてきた教育を引き継ぐことを謳っています。そして、中等教育学校の教育目標として「心を拓(ひら)く 知を極(きわ)める 体を育(はぐく)む」とし、将来の社会を担う若者として必要な総合的な力と人間性を育てる学校となります。

東京都が進めてきた中高一貫教育校の理念が、教養教育の推進であり、社会の様々な分野で信頼され

るリーダーを育てることを目的としています。このことは、まさに都立南多摩高等学校が実践し、目指してきた教育であり、今、社会の各方面でご活躍の皆さんのように、社会に貢献できる人材を育成しようということです。

## 3 南多摩高等学校からの移行について

平成 21 年度までの南多摩高等学校は、1 学年 8 クラス、3 学年合計して 24 クラスの学校です。そして、平成 27 年度南多摩中等教育学校への移行が完成したときには、1 学年 4 クラス、6 学年合計して 24 クラ

スの学校となります。つまり、学校の規模としては変わらないことになります。

それでは、来年度からの母校はどう変わっていくかというと、今まで新入生として高校生 8 クラスを募集していたものが、平成 22 年度～平成 24 年度は中等生(中学生)4 クラス、高校生 4 クラス、合わせて 8 クラスを募集することになります。

平成 25 年度からは、中等教育学校 4 クラスのみの募集となります。平成 24 年度に入学した高校生は、南多摩高等学校所属の生徒になります。この高校生が卒業する平成 26 年度までは、南多摩高等学校と南多摩中等教育学校が並立して存在する期間になります。

年度	南多摩高等学校	南多摩中等教育学校
21	1～3 年 8 学級 計 24 学級	—
22	1 年 4 学級 2～3 年 8 学級 計 20 学級	1 年 4 学級 計 4 学級
23	1～2 年 4 学級 3 年 8 学級 計 16 学級	1～2 年 4 学級 計 8 学級
24	1～3 年 4 学級 計 12 学級	1～3 年 4 学級 計 12 学級
25	2～3 年 4 学級 計 8 学級	1～4 年 4 学級 計 16 学級
26	3 年 4 学級 計 4 学級	1～5 年 4 学級 計 20 学級
27	—	1～6 年 4 学級 計 24 学級

## 4 中等教育学校とは？

本校は中等教育学校となります。これはどのような学校でしょうか。

教育を大きく分けると幼児教育(幼稚園・保育園)、初等教育(小学校)、中等教育(中学校・高等学校)、高等教育(大学・大学院)に分かれます。本校は中学から高等学校へ上がるときに入試がありません。また外部からの募集もありません。中等 1 年生で入学してきた生徒がそのまま 6 年間学びます。そこでこのような学校を中等教育学校と呼ぶことになりました。中等教育学校は途中の募集がない完全 6 年制の学校になります。学年も第 1 学年から第 6 学年まで通して数えます。

しかし、現行の教育制度では中学校と高等学校では、様々な違いがあります。例えば中学校は義務教育ですが、高等学校はそうではありません。そのため、中等教育学校の最初3年間を前期課程と呼び、中学校と同じ義務教育の扱いとし、後半3年間を後期課程と呼んで、高等学校と同等であるとしています。

一方、学習内容については、6年間を見通した中で、中学校で勉強する内容であっても後期課程(高等学校段階)で学習することも、高等学校で勉強する内容であっても前期課程(中学校段階)で学習してもよいことになっています。

## 5 本校の教育課程について

来年度から始まる中等教育学校の第1学年ですが、基本的には中学校と同じです。しかし、学習内容は、一部高等学校で学習する内容も含まれます。それは無理をして学習するということではなく、学習の過程の中でその方が効率よく、また無駄なく学習が進められる場合は、そうしようということです。

担当する先生も中学校で指導していた先生もいれば高等学校で指導していた先生もいます。6年間を見通してどこで学習するのが良いかを考える時には、中学校で経験した先生と高等学校で経験した先生とがよく協議をして学習計画をたてることが重要です。中学生としての発達段階とこれから6年間の学習の流れとを合わせて、多くの先生の目で子どもたちを育していくことが中等教育学校の特徴です。

## 6 本校の特色ある教育活動

今、学校は独自の特色を明確にして、学校を作っていくことが大事だといわれています。本校の特色は何でしょうか。

①駅から近い。だから、多摩地域全域から通学可能である。②八王子市にある。大学が周囲に多数あり、自然環境にも恵まれ、産業が育っている。街には歴史的な史蹟や伝統が多数ある。③100年を超える伝統がある。社会で活躍している卒業生がたくさんいる。母校を支え、発展に協力していただける方が多数いる。

このような特徴を生かして、本校は実際に様々なことを体験し、そこから学び、探究し、調べたり考えたりしたことまとめ、発表し、それを多くの人々から評価していただきながら次の学びへつなげていく探究活動に取り組みます。これを本校では「フィールドワーク」と呼んでいます。学びのきっかけは実社会にたくさんあり、そこから学ぶことで、最終的には社会に還元できる。そのことがこれから社会のリーダーとして必要な学びのプロセスだと考えています。「学校で学んだことを社会で生かす」が

大きなテーマです。

このような学びを展開するためには、学校のまわりで多様な学びが展開できるか、それを深めることができることができるか、生徒たちの学びを受け入れ、支援していくことができるかが大事です。本校のまわりを考えると、このような学習を展開するのに適した場所であることがよく分かります。

生徒たちは、本校で一生懸命学び、そのことをもって学校の外へと出ていきます。地域の皆さん、大学や企業、研究機関との連携、専門的な見地から生徒を育てていただける方々。このように本校を支えていただける多くの方々の支援で生徒たちが学びを一層深めていけばと考えています。あかね会の皆さんにもぜひご支援いただき、子どもたちを伸ばしていただきたいと思います。

## 7 おわりに

中等教育学校の開校に合わせて、本校の施設改修が昨年度から始まりました。工事期間中は、在校生はもとより卒業生の皆さんにもご迷惑をおかけする場面があったと思います。その一方で完成した最新式のトイレや、新しい教室等を、在校生が有意義に活用している姿を見ると、本校がよりよい学校へとますます発展していくと確信しています。

平成21年度をもって定時制課程が閉課程となります。本校定時制課程にも長い伝統と歴史があり、それが幕を降ろすことは寂しいことではあります。一方で時代の変化とそれにともなう教育の変化は止めることができないのも事実です。時代の変化に合わせて本校が中等教育学校への移行を始めることは、本校が教育の先進を目指して取り組んでいくことを意味しています。これからの中等教育学校に対して、南多摩高等学校とともにご理解とご支援をよろしくお願いします。



2つの学校名が並ぶ通用門の門標

# 南高定時制課程 63年の歴史に終止符

東京都立南多摩高等学校 定時制副校長 濱田 准一

本校定時制課程は、昭和 22 年(1947)4 月、都立第四高等女学校夜間課程の新設に始まりました。翌 23 年(1948)4 月、夜間課程を定時制課程と改称し、都立南多摩高等学校への校名変更を経て、現在に至っています。

本校定時制課程は、生徒が学校生活において達成感や成就感を味わうことができるよう様々な工夫を行い、教育活動を進めてきました。授業では、生徒の主体的な学習を促すとともに、日本語の習熟を必要とする場合や生徒の学習理解の状況に応じて、個別指導を行ってきました。また、教育相談活動を充実させ、生徒の学校生活への定着を図るとともに、生徒の個性を伸ばす指導を行ってきました。特別活動においては、生徒の自主性を重んじるとともに、教職員が一丸となって積極的な支援を行ってきました。

特に、部活動においては様々な種目で輝かしい成績を収め、部活動の盛んな学校としてその名を知られてきました。古くは水泳、バレー、ソフトボール、陸上等の強豪として、近年では剣道、ソフトテニス、バスケットボール、サッカーで全国大会に出場するなど好成績を残しています。

夜間課程開設以来 63 年にわたり、本校は働きながら学ぶ多くの勤労青少年の希望に応えるとともに、時代の変化に対応し、多様な青少年の自己実現を支援する場としても大きな役割を果たしてきました。そして、長い伝統と交通至便の立地条件



昭和 30 年代の定時制・夜の校舎

の下、定時制課程では都内有数の大規模校として、これまで 4,900 名を超える有為な人材を世に送り出していました。

さて、東京都教育委員会では、時代の変化に対応し、平成 9 年(1997)に「都立高校改革推進計画」を策定し、都立高校改革を進めてきました。その一環として、本校及び都立第二商業高等学校、都立富士森高等学校、都立八王子工業高等学校の各定時制課程を発展的に統合して、平成 19 年(2007)4 月に都立八王子拓真高等学校が開校されました。これにより本校定時制課程は、平成 18 年(2006)4 月入学生を最後として募集停止となり、平成 22 年(2010)3 月、最後の卒業生(第 60 回)を送り出した後、その歴史に幕を閉じることになりました。

## 定時制卒業生総数(昭和 26 年～平成 22 年)

卒業回数	男子	女子	総 数
60 回	1746 人	3250 人	4996 人

本校定時制課程が築き上げてきた歴史と伝統は、都立八王子拓真高等学校に受け継がれます。一方で、本校定時制課程が永年にわたって有為な人材を社会に送り出した功績は永遠に残ります。卒業生や関係者の皆様の心に、誇り高き南多摩定時制への思いがこれからも永遠に続いていくことを願い、閉課程のご報告の結びといたします。



定時制創設期の被服の授業(上)と、昭和 40 年頃の定時制授業風景(下)



## 南多摩高校と南多摩中等教育学校への期待と思い

南多摩高校校長・あかね会名誉会長 小林 幹彦（昭和45年卒）



明治41年、この地に府立第四高等女学校ができたあのとき、初めて門をくぐった生徒の気持ちはどんなだっただろう。校舎はどのような姿に見え、空気はどんな味がしたのだろう。

平成22年4月、160人の高校新入生とともに160人の中等教育学校新入生が入学してくる。中高一貫校の始まりである。大クスノキの前を通って入学してくる新入生の目に校舎はどのように映るだろうか。空

気の味はどのようだろうか。

南多摩高校を母校とする人たちにとって新入生として門をくぐったときの印象は一人ひとり違うのかもしれない。しかし、そこが母校であるという思いや愛着は同じなのではないか。第四高女から南多摩高校へ、そして南多摩高校から南多摩中等教育学校へと名称が変わり、学年編成が変わる。それでも南高は南高、母校である。だから、いつの時代でもここに集い巣立っていくのは、校歌にある通り「華やぎて声合わす」若人であり、「仰ぎ見て眉あがる」若人であり続けてほしいと思う。

## 母校の発展と後輩たちのために

100周年基金運営委員会委員長



同窓会の皆さん、母校創立100周年記念事業に対して、沢山のご支援とご協力を賜りありがとうございました。お蔭様で記念誌「湧水万古」や「会員名簿」の発刊、和太鼓セットや洋楽器の寄贈などを行い、一昨年10月には記念式典と祝賀会を厳かに、そして盛大に挙行することができました。大勢の方々から高い評価をいただき、成功裡に実施できましたのは、偏に本事業に賛同し、ご協力され、ご努力いただいた実行委員の皆さんのお蔭と心から感謝しております。

記念事業で残すことができました浄財は、平成21年2月に発足した100周年基金運営委員会に、その活用を委ねることとなりました。初年度はすでに母

校からの要望に応え、スクールカウンセラーへの謝礼、多摩産材製の机・椅子の寄贈、「先輩に学ぶ」の講師派遣などに役立てることができました。

母校は今年度から「南多摩中等教育学校」として、新しい歩みを始めました。基金はその若き後輩たちが豊かな社会性を身に付け、世界に通じる国際性を發揮できる有為な人材に育つために活用し、母校の発展と後輩たちの教育に役立たせたいと願っております。

末尾ではありますが、母校の発展とあかね会の新たな力強い活動をお祈りいたします。

## 明神町、昔へタイムスリップ！

子安神社を人々は大明神と呼んでいた。境内のところどころに清水がほとばしり、静かな庶民の憩いの場であった。今は子安神社に式殿など立派に建てられたが、昔は鳥居の前から府立織染学校の校舎が見えるほど家もまばらであった。現洋画家の重鎮、鈴木信太郎先生の生家は八王子にあって、若き日の先生はよくこの大明神の境内を写生なされた。先生初期の作『社頭の暁』が入選され、中央画壇にその名がひびき出したのは、昭和の初めだった。鳥居の近くには粟もち屋があつて、大勢の人々に舌づみを打たせたあの粟もちの甘さが舌によみがえる。むかし、京王八王子駅はなく、東京府立第四高等女学校は青田と清流めぐる中にあつた。

広い校庭のどこにも、クローバーが生い茂り、四ツ葉を探す乙女たちの感傷をさせつた。ご自慢の滑らかなテニスコートが五面もあつて、ゆたかに場を占めた花壇には、四季の花々の宴たえもなく、訪れる野鳥のコーラスにめぐまれた環境の中にあつた。テニスのあとひと汗を、青田を渡つてくる風がさつと拭つてくれた夏の日のすがしさ。

初代校長、長尾松三郎先生は謹厳そのもの、その良妻賢母主義を、大方の乙女らは素直に遵奉していた。服装は木綿の短袖、映画、流行歌、恋文等々ご法度。校長先生の長い訓話に辟易した少女たちは、「話の長尾、鐘の鳴尾待三郎」などときさやいたのも遠い日のおもい出。ご法度とはいえそのころ出来たゴンドラの歌を、乙女らは唄わずにいられなかつた。

学び舎の庭と思へど乙女らは  
小声に唄えゴンドラの歌

※アララギ派の歌人 故廣瀬艶子（旧姓金子）さん  
(大正十一年卒)の作品『糸縄草』より抜粋

## 高校時代から続くこと

南多摩高校合唱部OG合唱団「ピヨコスケ」 望月 幸恵(平成 18 年卒)

高校を卒業して 4 年が経ち、私は現在大学の薬学部で、5 年目の大学生活を送っていますが、当時所属していた合唱部で出会った仲間とは、卒業と同時に OG 合唱団『ピヨコスケ』を結成し、今でも活動を続けています。

私が入学した当初、合唱部は部員ゼロの休部状態にありました。そこで音楽科・横井明子先生のご指導のもと、ゼロから部活を立ち上げ、『卒業後も合唱がしたい!』ということで OG 合唱団を立ち上げ、現在に至ります。昨年は「全国花嫁人形合唱コンクール」で、優良賞を受賞することができました。

南高 OG として舞台に立つと、毎回驚くことがあります。どこで歌っても、南高関係者の方や、過去に卒業された

先輩方に声をかけて頂けるのです。これは卒業生の多い、歴史ある南高ならではのことだと思います。今回広報紙にスペースを頂いたのも、南高の大先輩の方に、活動を通してご支援頂いたことがきっかけです。このような出会いを経験できること、多くの方に応援していただける中で合唱ができるということは、本当に幸せなことです。

高校を卒業してから私は様々な経験をして、当時よりは幾分成長したように思います。しかし、考え方のベースには、常に南高合唱部で学んだことがあります。そして卒業後に仲間と共に作り上げた場所は、いわば心の中のホームです。そういうふうな場所に、高校時代に出会えたことに、とても感謝しています。

## 『クラス会のご縁』

昭和 55 年春、私とクラスの仲間達は南多摩高校を卒業して行きました。その時の担任の先生は、その後退職するまで担任を持つことは無く、私たちのクラスが最後の担任となつたのです。

それから 30 年近く時が流れ、一昨年、その担任の先生をお呼びして、久し振りにクラス会を開きました。集まつた 20 数人は 30 年のブランクを超えて、すぐに打ち解け、当時の話や、今の話で盛り上がり、あだ名で呼び合つたりと楽しいひと時になりました。やはり会社の飲み会とは違う、クラス会の醍醐味でしょう。

昨年も同じ時期に開き、やはり楽しい会となりました。この時は南多摩高校が中高一貫校に大きく変化することで、何か母校の記念を残そうと、南高の校章や担任の名前、卒業年度などを彫刻した「メモリアルグラス」を制作し記念としました。

## 江別市出土「ペア土偶」について

江別市は札幌市の東に隣接し、同市のベッドタウンとして急速に宅地化が進みました。北海道の先史を知るうえで、江別市を含む石狩低地帯は、北海道南西部と道東



部にあった文化の交流する、貴重な場でもありました。野幌丘陵から開拓された小河川に沿つて人々の暮らしが継続的に続いていたことが、今までの調査から確認されています。

先日まで上野・国立博物館の「国宝土偶展」に出品されていたペア土偶は、昭和 60 年(1985)、江別市大麻元町で住宅建設に伴う緊急発掘調査で発見しました。約 2000 年前の縄文晩期の土器とともに、墳墓と考えられる

●江別市郷土資料館(写真提供も同じ) <http://www.city.ebetsu.hokkaido.jp/kyouiku/koukyosisetu/kyoudo/kyoudo.html>

# あかね会について

## 同窓会の発足から命名由来、これまでの活動まで

母校の同窓会は、明治41年(1908)に東京府立第四高等女学校が開設し、その3年後に第1回生47名が卒業した明治44年(1911)11月26日に発足しました。

当時は初代校長の長尾松三郎(写真中央)が同窓会の初代会長となり、教員4名、卒業生4名の計8名が幹事として選出されました。卒業生が同窓会の会長に就任したのは、昭和26年(1951)、第4代の渡辺ふみ会長(本科1回卒)からです。

以後、校長は名誉会長となり、会長は卒業生の中から互選されました。現在は黒須隆一会長が務め、今年で発足から99年目を迎えます。

「あかね会」の命名由来は、昭和33年(1958)5月のこと、当時の第5代池田文雄校長の発案でした。

「東の空をあかね色に染める朝日から太陽や美しいものを連想し」、また、「君(きみ)にかかる枕詞の“あ

かねさす”から発想されました。あかね色は古代から敬愛された色で、万葉集、古今・新古今など和歌集にも

高らかに歌われています。当時の小川良同窓会会長や卒業生の河内八重子事務長らの賛同を得て決定されました。

同窓会会報は、大正2年(1913)に8頁で創刊され、その後毎年発刊されましたが、近年は特別の行事等の際に特別号が出され、創立75周年記念号、100周年記念事業での「南高100周年」(1~7号)、そして今回の2010年特別号と続いている。

同窓会名簿の発行は昭和32年(1957)からで、その後母校周年行事にあわせ90周年、100周年と発行し、28,000人余の卒業生名簿を管理しています。

あかね会の組織は、会長、副会長、庶務、会計、会計監査の役員のもとに、現在48名の常任委員(役員含む)で構成され、これに特別委員の広報委員が加わり、総会、委員会の活動を進めています。

総会は毎年、5月の第3日曜日に開催し、年に数回の常任委員会を開催し、活動方針や母校生徒の部活動支援、母校との緊密な連携などを図り、卒業生としてできる限りの援助を行っています。



第四高女技芸科の第1回卒業生(明治44年)

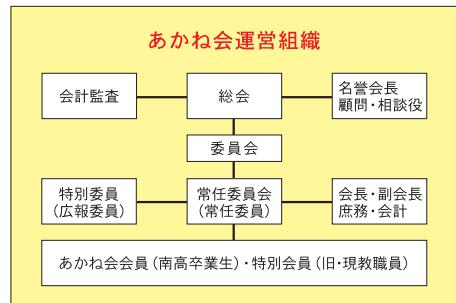
## 100周年記念事業を契機に、活発になった同窓会活動

昨年5月17日のあかね会総会には、約80人の同窓会員が集まり、定時総会が滞りなく終了した後、「日本ホタルの会」理事で、創価大学「螢桜保存会」顧問の井上 務さん(昭和44年卒)により、『ホタルの講演会』が行われました。恩師と慕う相沢健夫先生もお見えになり、教え子と久々の交流が図れました。講演では螢の卵や標本なども提供され、参加者は興味深げに聴き入り大変好評でした。その後、昼食をはさんで楽しげな同窓生の交流会が開かれました。

同窓会の活動方針などを決める常任委員会は、この3月まで6回開催されました。この1年、会の活

動の充実に向けた検討、ホームページの開設、広報委員会の設置、今回の広報特別号の発行、創立100周年基金との連携による学校支援の実施などが検討され実行されてきました。また、夏には高尾山納涼会、冬には新年会などもあわせ行われました。

「100周年記念事業」を契機に新たに活動に加わった委員が、あかね会活動にも常任委員で参加し、少しづつ会の活動が活発になりつつあります。会では、今後、同窓生への情報提供や交流活動などを、広報紙やホームページを通じて積極的に展開したいと考えています。



# 南多摩高校同窓会「あかね会」の

## 1 ホームページ開設の経緯と趣旨

私たちの母校「南多摩高校」は、明治41年(1908)5月に東京府立第四高等女学校として創立以来、昭和25年(1950)に南多摩高校となり、平成20年(2008)には創立100周年を迎えました。さらに今年からは、中高一貫校『東京都立南多摩中等教育学校』として、新たな歴史を刻むことになりました。

こうした歴史の流れの中で、卒業生はすでに28,000人を超え、社会のさまざまな場所で活躍されていますが、年代を超えた卒業生間の交流の場がありました。

情報化社会といわれる現在、パソコンが家庭にも普及し、インターネットを通じた卒業生同士の交流も容易な環境が整いました。こうした環境の中、近隣他校の同窓会もホームページを通じて活発な活動が行われています。

わが南多摩高校の同窓会も母校の創立100周年を機にホームページ開設の準備を進め、昨年12月に『南たまコミュニティ』として、同窓会「あかね会」のホームページを開設しました。

『南たまコミュニティ』は、都立南多摩高校と府立第四高女の卒業生(あかね会会員)及び教職員の皆様と母校をつなぐコミュニティサイトです。



【あかね会サイトのトップページ】

このサイトを有効に活用して、同窓会(あかね会)の情報発信、会員相互の情報交換、同期会やクラス

会の連絡などのほか、現在の母校や後輩、PTA、教職員の方々と卒業生をつなぐ架け橋となることを願っています。

## 2 ホームページの構成

開設時のホームページの構成は、以下のようになっています。

### ① トップページ

最新情報の「学校・会員だより」と「会員通信」を中心にホームページ全体の目次になっています。

【学校・会員だよりのページ】

### ② あかね会のページ

同窓会「あかね会」の規約や活動予定などの紹介をしています。

【あかね会の由来のページ】

### ③ 南高のあゆみのページ

歴史年表と各時代の写真で母校の歴史を紹介しています。

【昭和前期の南高の紹介】

# ホームページを開設しました

## ④ 南高あらかるとのページ

南多摩高校に関するさまざまなエピソードなどを紹介しています。



【通用門にある像の解説】

## ⑤ 南高 100 周年事業のページ

平成 20 年に実施された記念事業の様子や内容を紹介しています。



【100周年記念式典の写真紹介ページ】

## ⑥ リンク集

母校「南多摩高校」や「南多摩中等教育学校」などのホームページにリンクしています。

Minamitama Community

ホームページアドレス <http://www.akanebai.org/>

◎住所変更、同窓会連絡、会員だよりなどは、会員情報連絡フォームをご利用ください。

## あかね会広報委員を募集！

ホームページ制作・運営・取材などあかね会広報委員会では、母校と同窓生をつなぐ役割を担う広報委員を募集します。

昨年末に南多摩高校同窓会のホームページ『南たまコミュニティ』を開設しましたが、2万名を超える会員相互の情報交換、母校の情報発信、会員情報の管理、記事の取材などには、なるべく多くの皆さんの協力が必要です。特に、ページの編集、記事の取材など、IT の知識をもった人や記事を取り扱い、

南多摩高校 :

<http://www.mt-h.metro.tokyo.jp/>

南多摩中等教育学校 :

<http://www.minamitamachuto-e.metro.tokyo.jp/>

## ⑦ Q&A

ホームページの使い方を説明しています。

## ⑧ 問合せフォーム

会員の皆さんから同窓会事務局への連絡用のページです。

## ⑨ ブログ・掲示板

会員相互の意見交換や情報交流用のページです。

## 3 皆さんのご協力をお願いします

このホームページは、あかね会委員のボランティアで運営していますが、まだ十分なサイトになっていいるとは言えません。会員の皆さんの協力を得て徐々に充実したサイトにして行きたいと思っています。

インターネットがご覧いただける環境にある方は、以下の URL にアクセスしてみてください。

<http://www.akanebai.org/>

皆さんからの情報の提供、サイトへのご意見などは、「問合せフォーム」からお送りください。また、住所等に変更があった場合は、[\[あかね会のページ→会員情報変更フォーム\]](#)からお送りください。

会員の皆さんからのご連絡をお待ちしています。

(あかね会広報委員会)

# 100周年基金運営委員会

## 平成 20 年に「100 周年記念事業」が完了しました

100 周年記念事業は、平成 20 年(2008)10 月に母校の記念式典、同窓会の祝賀会を開催し、記念誌『湧水万古』、『会員名簿』の発刊など予定の事業を完了し、実行委員会は解散しました。事業活動

の詳細についてはホームページをご覧ください。また、同窓生の寄付をもとに、母校である南多摩高校に和太鼓、洋楽器など、将来にわたり永く活用できる什器備品などの支援をしております。



記念式典



南高百年太鼓



室内楽とハレルヤコーラス



祝賀会

## 「創立 100 周年基金」と基金運営委員会の活動

母校 100 周年記念事業実行委員会の事業は、平成 21 年(2009)4 月、『創立 100 周年基金』として新たに設立された基金運営委員会に引き継がれました。今後の母校の発展に寄与すること、若き後輩が豊かな国際性と社会性を身につけ、有為な人材に育つよう支援することを目的としています。

経緯として、100 周年記念事業で同窓生からご協力いただいた募金などは、すべてを費消せず、当初から「基金」(約 2 千万円)として、将来にわたり学校教育などの支援に充てる予定でした。

お蔭様で、当初の予定を超える額をもって基金を立ち上げ、基金運営委員会として母校へ支援を開始することができました。

基金運営委員会は、あかね会や P T A と連携し、目的達成に向けて円滑な運営を行っていきますので、皆様の更なるご協力をお願いします。

母校は今春から、中高一貫 6 年制学校『都立南多摩中等教育学校』として新たな歩みを始めます。同窓生の皆様は母校の将来の発展に深い関心を持って、生徒たちを温かく見守ってください。

## 生まれ変わる母校に、「100 周年基金」による支援を

基金は長期にわたって学校・生徒への支援、同窓生への情報提供、その他の事業を実施します。基金規約(平成 21 年 2 月)では、その運営期間を 10 年(期間延長も可)と定め、次の周年行事までを想定して資金を運用することとしています。

平成 21 年度は、①スクールカウンセラーの派遣 ②多摩産材の机・椅子の寄贈 ③「先輩に学ぶ」授業への講師派遣での学校支援 ④同窓会ホームページ開設の費用負担 ⑤今回の広報紙特別号「美なみたま」の郵送料などの支援 ⑥昭和の戦災(昭和 20 年 8 月)で焼け残った校内の「クスノキの記念

碑」設置の準備などに取り組んできました。

今年は母校に中等教育学校の 1 年生が入学する記念の年です。これまでの高校に、中学 1 年生の生徒が通う学校が併設されます。昨年から学校設備の改修がなされました。従来にない学校運営の支援需要がでてくると思われます。

基金を適切に運用し、母校の教育方針「人間力」の形成に向け、側面から援助などを図ります。

なお、現在、基金はあかね会と並列的に設置されていますが、早い時期にあかね会と統合し、卒業生にわかりやすい組織運営を進めていきます。

# 記念誌『湧水万古』、『会員名簿』の特別販売

南高創立 100 周年事業として発行された記念誌『湧水万古』と『会員名簿』。どちらも残り部数が僅少ですが在庫がございます。ご希望の方はお早めにお申し込みください。

## 記念誌 湧水万古【永久保存版】

B5 判◆1色刷(一部カラー)◆456 頁ハードケース付  
◆2008 年 11 月発刊◆価格 : 3,500円(送料含む)

【主な内容】口絵カラー：現在の母校■南高 100 年の足跡：  
貴重な写真を多数掲載■南高 100 年の沿革史■中高一貫校■  
誌上タイムカプセル—今を未来に伝達 他 掲載記事多数

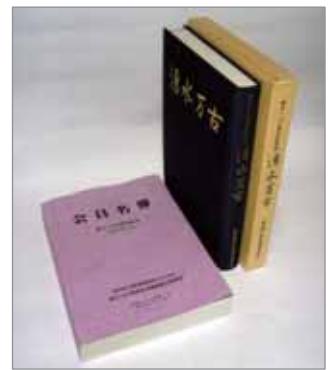
### ●記念誌のお求め方法

下記宛てのメール、または電話で、住所・氏名・連絡先電話・卒業年度・組を連絡の上お申し込みください。  
折り返し記念誌を発送しますので、同封の郵便振替用紙で代金¥3,500 円をお振り込みください。

- 申込先：メール [kinenshi@akanekai.org](mailto:kinenshi@akanekai.org) 田辺
- 申込先：電話 0428-33-4820 加藤

## 会員名簿 【2008 年版】

B5 判◆1色刷◆ 700 頁  
◆28,300 人の卒業生と教師を収録◆2008 年 10 月発刊◆価格 : 4,300円(送料含む)



### ●会員名簿のお求め方法

電話で住所・氏名・連絡先電話・卒業年度・組を連絡の上、お申し込みください。折り返し会員名簿を発送しますので、同封の郵便振替用紙で代金¥4,300 円をお振り込みください。

- 申込先：電話 042-625-8325 野口

## 記念誌『湧水万古』は感動ギッシリです

井上 務 (昭和 44 年卒)

「歩」を分解すると「少し止まる」と教えて下さった方がおりました。「少し止まったように思えても歩みが進んでいることもある！」と納得した私。  
忙しい毎日ですが、ちょっと立ち止まって記念誌『湧水万古』を開いて見ませんか！この『湧水万古』、どのページから読み始めても感動ギッシリです。  
編集長の見事なリードの下、記念誌委員会の一員

として懐かしい恩師を訪ねたり、水泳が強かった頃のことや、八王子空襲で校舎が焼けた日のお話を先輩から伺い、現役生徒会長を交えた座談会の模様のテープ起こし…の編集に携わらせて頂きました。  
こうして出来上がった原稿を校正のために全文読了。  
そんな私が『湧水万古』の素晴らしさを保証いたします。ご一読を！本当に感動ギッシリです。

## 多摩産材で製作した机・椅子を寄贈

## 100 周年記念基金を活用

東京都教育委員会では、平成 18 年に「多摩で産出される木材を活用した都立学校什器に関する標準規格」を策定し発表しました。すでに多くの都立高校では多摩産材の規格什器が設置されていますが、南多摩高校にも 1 階や 2 階ホール、図書室などに多摩



産材の机や椅子が導入されています。

多摩産材什器を導入する目的は、木材には癒し効果や精神的なゆとりをもたらす効果があることから、木材を

活用した都立学校什器の導入を促進することにより、教育環境の向上をはかることとされています。

100 周年記念基金運営委員会では、貴重な財源を学校の支援に有効に活用することが最重要であり、母校から多摩の産材を使用した什器を、2 階職員室前や進路相談室前に設置の要望があり、支援策として最適と判断し、昨年の 12 月に母校に寄贈しました。  
現在では、その机・椅子は生徒達が語りあったり、自習や先生とのコミュニケーション場所として使用頻度も高く、大勢の生徒達に有効活用されています。

寄 贈：多摩産材仕様 机 2 台・椅子 6 脚  
設置場所：南多摩高校・東館 2 階

## 総合学習プロジェクト「先輩に学ぶ」の主旨

新しい中高一貫 6 年制学校「南多摩中等教育学校」の教育課程では、人間力を養う総合的な学習の時間を設けており、基本理念は「心・知・体の調和」にあります。人間力を養うとは、自分の力で人生(進路)を選択し、自立した一人の人間として力強く生きていくための力を身につけることと定義されています。

総合学習支援プロジェクト『先輩に学ぶ』では、社会の第一線で働く経験豊かな卒業生から貴重な話を聞き、生徒が自分の力で人生(進路)を選択し、自立した人間として力強く生きていくための支援として実施されてきました。100 周年記念事業の一つとして始まり、すでに今年で 5 回目となります。

## 生徒が将来の進路を決める羅針盤に

3 月 12 日、母校 2 学年の生徒 320 名を対象に、総合学習『先輩に学ぶ』の講演会が開かれました。会場は校内の教室、小ホール、食堂の施設を使い 5 つの分科会に分かれて、5 人の先輩講師により約 1 時間、それぞれの演題で講演していただきました。

5 回目を迎えた今回は、創立 100 周年記念基金運営委員会が新たに発足し、この『先輩に学ぶ』プロジェクトを引き継ぐことになりました。母校の後輩が進路を決める選択肢の一つとして役立つよう、また将来、社会人となって様々な分野で活躍することを願い、母校の総合学習カリキュラムに組み込まれることになりました。

今回は税理士、弁護士、音楽家、元国土地理院職員、独協大学教授と、多彩な分野で活躍されている講師陣がそれぞれの講演テーマで、自身のプロフィールを興味深く語ることから開始。「努力して切り開く精神力」、「夢を実現させる闘志」、「一貫性のある生き方」、「関心を持った学問を研究し、生涯学習としての職業に」、「限りある“時間”の活用」など、貴重な体験をこめて熱く語りかける姿勢は、このプロジェクトの意義を改めて確信できるものでした。

必要な時はアドバイスしてもらえる先輩との架け橋がいま力強く架けられ、生徒たちの大きな心のよりどころとなったことと思われます。



5 人の講師 左から菱山、森、松田、原、加藤の各氏

### 第5回「先輩に学ぶ」の講師 (2010.3.12)

講師名	卒業年度 (昭和)	職業	講演テーマ
加藤 晃	38 年	税理士	「私を語る」税理士業務と人生
森 保彦	38 年	弁護士	たった一度の人生をどう生きるか
松田 有子	39 年	音楽家	「寄り道」活用法
菱山 剛秀	44 年	元国土地理院	土偶と出会い地図作りの道へ
原 成吉	47 年	獨協大学教授	ロックミュージックからアメリカを読む

## テーマ別に 5 人のOB 講師が熱心に講演

定刻の 1 時半、会場の最後列に席を取り、開演を待ちました。どの会場も若い熱気に溢れ、このプログラムの成功を感じさせるに十分な雰囲気でした。

### 「私を語る」税理士業務と人生 講師: 加藤 晃

参加者は約 40 名、冒頭「人は挨拶すること、感謝

の気持を持つことが大切」と切り出す。税理士の仕事の内容、その資格取得の狭き門の現状を話し、いろいろな仕事を経験した中で、税理士という職業を選び、「これを天職と思って後継者の育成に努力している」と話す加藤講師の熱弁に、信念の強さを感じました。

## たった一度の人生をどう生きるか 講師:森 保彦

参加者 96 名。弁護士という職業柄、母校の隣の裁判所へよく行く機会があり、懐かしいと語る口調は穏やか。中・高時代に勉学に励み、大学は法学部を専攻。弁護士を目指しながらも、「よく学びよく遊ぶ大学生活であった」と数々の楽しいエピソードを交えて話され、難関の司法試験に合格できた喜びを語られました。会場を埋め尽くした後輩達に「どう生きるかは自分で決めてください」と結びました。

## ロックミュージックからアメリカを読む 講師:原 成吉

参加者約 95 名。会場の小ホールには CD がセットされ、Bob Dylan の Blowin' in the Wind が流



小ホールを多くの生徒で埋め尽くした原教授の講演

れています。詞を訳す原講師に生徒達は静かに耳を傾けていました。生徒から「英語の上達法を教えてください」、「英語の勉強に役立つロック音楽は?」等の質問がありました。最後に原講師は「自分の好きな道に進んで、イマジネーションを膨らましてください」と結びました。

## 「寄り道」活用法 講師:松田 有子

約 40 名の生徒達は今回唯一の女性講師の話に傾聴しました。松田講師の明るい声が印象的。理論は学校で教わり、感覚は自分の体験を通して得るために、沢山寄り道をして欲しい。その中から自分の将来を見つけてください、と「寄り道活用法」を力説。実際にご自身の子供さんの進路に触れたことで、生徒達は身近な問題として関心を高めたようでした。

## 土偶と出会い地図作りの道へ 講師:菱山 剛秀

参加者約 40 名。昭和 43 年八王子市川口町宮田遺跡での「子抱き土偶」の発見がきっかけで地図作りを仕事とし、国土地理院へ就職されました。地図の読み方、地図から見えてくるもの等を興味深く話されました。最後に月周回衛星「かぐや」から見た月の地図は圧巻。会場の生徒達からの感嘆の声が忘れられません。

## 総合学習支援プロジェクト「先輩に学ぶ」の講師募集！

総合学習支援プロジェクト『先輩に学ぶ』は、近い将来、生徒が人生における進路学習を決める際に、社会の第一線で働く卒業生から話を聞き、進路選択に役立ててもらうことを目的に、毎年 2~3 月に 2 年生を対象に実施しています。

自薦、他薦でも結構ですので、幅広い年代から色々なジャンルの方まで、母校のための講師登録

にご協力ください。また、同窓会などで話題にしていただき、推薦できる方がおりましたら、下記のメールアドレスか、同窓会ホームページ『南たまコミュニティ』から講師登録をお願いします。

●連絡先メール : [jigyo@akanekai.org](mailto:jigyo@akanekai.org)

南高 100 周年基金運営委員会・事業委員会

事業担当 : 大澤 晃

- 2010 年、会員が参加または見学できる行事予定です。詳細はホームページなどでご確認ください。
  - ・あかね会総会 : 5 月 16 日(日)
  - ・合唱祭 : 6 月 3 日(木) 八王子市民会館
  - ・南高祭 : 文化祭 9 月 11~12 日(土・日)  
体育祭 9 月 15 日(水)

《お知らせ》 ●4 月に開校した南多摩中等教育学校、しばらくは南多摩高等学校と 2 つの学校が共存しますが、平成 27 年 3 月以降、南多摩高等学校はなくなり、南多摩中等教育学校に引き継がれます。  
●南多摩高校、南多摩中等教育学校 共通の応援歌を、南高 OB の音楽家・郡司 博氏に依頼しています。

《寄付御礼》 昨年 4 月から 1 年間に、5 人の会員の方より 計 55,200 円の寄付を頂戴しました。この浄財は母校の教育活動などへの支援に活用させていただく予定です。誠にありがとうございました。

【編集後記】 2010 年は中高一貫校の開校、定時制の閉課程などと、南高にとって歴史的な変革期にあたります。また、会員(卒業生)に向けて、あかね会オフィシャルサイト「南たまコミュニティ」も開設されました。これら情報をお知らせするために、今回、あかね会広報紙『美なみたま』特別号を発行し、住所が判明している会員全員に送付することになりました。100 周年事業を機会に会員相互の交流が活発になり、先輩・後輩という年齢差を越えて、会員同士の連帯感も密になってきました。皆様も久しぶりに母校を訪れたり、ホームページを通して会員との交流にご参加ください。 広報委員会 新垣

<p><b>有機バナナのパイオニア ナチュラルヒーロー®</b></p> <p><b>Safety</b> 安心</p>  <p><b>Delicious</b> 美味しさ</p> <p>株式会社 ヒロインターナショナル 代表取締役 神藤宏昭(昭和35年卒) 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-16-5 (マニュライフプレイス渋谷3F) 電話:03-3406-1091</p>	<p><b>Sanhyosha</b> <b>刷新ing</b> お任せ下さい！印刷のすべて。</p> <p>取締役副社長 野口富巳子(昭和35年卒)</p> <p>有限会社 <b>三公社</b> 〒192-0041 東京都八王子市中野上町2-29-1 TEL: (042) 625-8325 FAX: (042) 625-8369 <a href="http://www.san-p.co.jp">http://www.san-p.co.jp</a></p>
<p>京王八王子駅前〔日曜・祝日 休診〕</p> <p>医療法人社団 大島会</p> <p><b>大島耳鼻咽喉科クリニック</b></p> <p>院長 大島 清史／大島 富子(昭和 25 年卒)</p> <p>〒192-0046 八王子市明神町 4-5-9 TEL:042-642-8012 <a href="http://www.oshima-ent.com/">http://www.oshima-ent.com/</a></p>	 <p><b>SHINDO ORTHODONTIC CLINIC</b></p> <p><b>新藤矯正歯科クリニック</b></p> <p>〒192-0081 東京都八王子市横山町 23-2 TEL:042-646-3686 <a href="http://www.shindo-ortho.com">http://www.shindo-ortho.com</a></p>
<p><b>城山右田医院</b></p> <p>院長 村田 恵子／右田 貞子(昭和 26 年卒)</p> <p>〒252-0105 神奈川県相模原市緑区久保沢 1-2-7 TEL:042-782-2120</p>	<p><b>心のふるさと 祈りのお山 高尾山</b></p> <p><b>薬王院 山主 大山 隆玄(昭和 28 年卒)</b> <a href="http://www.takaosan.or.jp">http://www.takaosan.or.jp</a></p>
<p>南多摩高校東隣</p> <p><b>まつもと歯科医院</b></p>  <p>院長 松本 秀一／松本 陽子(昭和 28 年) 〒192-0046 八王子市明神町 4-22-9 電話:042-642-7464 [日曜・祝日 休診]</p>	<p>明るい未来を拓く、元気な子供達を育てます。 社会福祉法人 相友会</p> <p><b>浅川訪長房西 保育園</b></p> <p>理事長 村松 一恵(昭和 28 年卒) 法人本部 〒193-0812 八王子市諏訪町5 TEL:042-651-4555</p>
<p>歯科一般・保健医療機関・予約制・初診随時受付</p> <p><b>糠信歯科医院</b></p> <p>院長 糠信 安宏(南多摩高校歯科医) 糠信 和代(昭和 29 年卒)</p> <p>八王子市明神町 4-2-9 青ハイツ2F(京王八王子駅西口出口前) 電話:042-642-3131 [休診日:水曜・日曜・祝祭日]</p>	<p><b>医療法人社団 真歯会 常盤矯正歯科医院</b></p> <p>理事長:常盤 肇 理事:常盤 正臣(昭和 31 年卒) 〒160-0022 東京都新宿区新宿 4-3-22(安藤ビル 5F) 電話:03-5363-1182 FAX:03-5363-1173 フリーダイアル:0120-755-182 <a href="http://www.tokiwaoc.com">http://www.tokiwaoc.com</a></p>
<p>山も良し 水も又良し 秋川の酒</p> <p><b>清酒 喜正</b></p> <p>醸造元 野崎酒造株式会社 TEL:042-596-0123 代表取締役 社長 野崎 三永 FAX:042-596-5229 阿部(野崎)芳子(昭和 27 年卒) 野崎捷治(昭和 31 年卒) 吉田(野崎)正世(昭和 36 年卒)</p>	<p><b>有限会社 保寿産業</b></p> <p>代表取締役 小川 賢子(旧姓岸 昭和 31 年卒) 〒190-0023 立川市柴崎町 1-9-32 TEL:042-526-2646 FAX:042-529-7500</p>

<p><b>医療法人社団 三真会 勝田 医院</b></p> <p>泌尿器科・内科・外科 院長 勝田 真行／勝田 三枝子（昭和 33 年卒） 〒193-0803 八王子市檜原町 556-1 電話:042(625)2727 FAX: 042(625)2700 〔休診日: 日・祝、木・土の午後〕</p>	 <p>高級オリジナルニット 色彩の魔術師</p> <p><b>齋藤都世子作品ルーム</b> 八王子・子安サロン 浅野 常子（昭和 34 年卒）</p> <p><b>きもの浅野</b> 〒192-0904 八王子市子安町 3-32-10-106 ☎・FAX:042(646)9833 090-1422-1192</p>
<p>病院、施設、事務所等の給食専門問屋</p> <p><b>増田屋</b> <b>株式会社 増田禎司商店</b></p> <p>代表取締役 増田太郎 増田敦子（昭和 34 年卒） 八王子市川口町 3726-2 TEL:042-654-2222 FAX:042-654-5049</p>	<p><b>社会福祉法人 愛和会</b></p> <p>白百合ベビーホーム 白百合寺田保育園</p> <p>白百合第二ベビーホーム 八王子市立多賀保育園</p> <p>多賀保育園園長 和田百合子（昭和 35 年卒） 〒192-0051 八王子市元本郷町 2-6-20 電話:042-622-2196</p>
<p><b>ダンスウェア・シューズ</b> (ソシアルダンス・ホークダンス・バレーシューズ)</p> <p><b>チャットハ王子</b></p> <p>店長 粕谷 和子（昭和 35 年卒） 〒192-0085 八王子市中町 12-8 TEL・FAX: 042-626-1255 〔定休日: 水・日曜 営業時間: 午前 12:00～午後 6:00〕</p>	<p>省力化機器 設計・製作</p> <p><b>有限会社 キタノ</b></p> <p>代表取締役 小山 隆司（昭和 36 年卒） 〒192-0914 八王子市片倉町 584-25 電話:042-642-1808 FAX:042-642-1808</p>
<p>「カラオケ」と「うたごえ」を楽しく！</p> <p><b>うたの駅</b></p> <p>駅長 半澤 邦彦（昭和 37 年卒） 〒193-0844 八王子市高尾町 1595-3-101 TEL:042-664-6555 <a href="http://www.utanoeki.co.jp">http://www.utanoeki.co.jp</a></p>	<p>元気な身体とやさしい心</p> <p><b>東京都認証保育所 星の子保育園</b></p> <p>園長 半澤 キヨ子／半澤 邦彦（昭和 37 年卒） 〒192-0914 八王子市片倉町 717-4 TEL:042-632-2525 FAX:042-632-2526 <a href="http://星の子保育園.com">http://星の子保育園.com</a></p>
<p>ISO 取得事務所</p> <p><b>税理士法人 西東京会計</b></p> <p>代表社員・税理士 加藤 晃（昭和 38 年卒） 事務所: 〒192-0032 八王子市石川町 733-4 TEL:042-644-1771 FAX:042-645-7372 <a href="http://www.tkcnf.com/ntk/">http://www.tkcnf.com/ntk/</a></p>	<p>先輩・後輩・友人の皆さん お元気ですか</p> <p><b>弁護士 森 保彦</b>（昭和 38 年卒） 森田・森法律事務所 〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-8 (コープ・クローバー駒井 504 号) TEL:03-3355-4021 FAX:03-3355-4022</p>
<p><b>nakano</b></p> <p>学校法人 八王子中村学園 なかの幼稚園</p> <p>なかの幼稚園 そこは 子どもの世界です。</p> <p>〒192-0041 八王子市中野上町 5-32-13 TEL:042-622-3001・FAX:042-624-3103 <a href="http://www.nakano-kd.ed.jp/">http://www.nakano-kd.ed.jp/</a> 理事長 中村 健（昭和 46 年卒）</p>	<p>インターネット販売の大型専門店</p> <p><b>Murauchi.com</b></p> <p>株式会社 ムラウチドットコム 代表取締役社長 村内 伸弘（昭和 61 年卒） 〒192-0906 八王子市北野町 598-2 TEL:0570-064-884 <a href="http://www.murauchi.com">http://www.murauchi.com</a></p>

# 「第99回あかね会総会」にお出かけください

会員(卒業生)の皆さん、毎年、5月の第3日曜日は、『あかね会総会』の日です。今年は中高一貫校「南多摩中等教育学校」開校の年で、都立てトップの9.74倍という難関を勝ち抜いた中学1年生160人が入学しました。

これを記念して、あかね会では来る5月16日に100周年基金運営委員会と合同で、創立から100余年にわたり母校の歴史を見守ってきたクスノキを称える記念碑を建て、その除幕式を執り行います。

また、その後の講演会では、南高100周年OBOG合唱団の指揮を執り、5つの合唱団の指導もされている音楽家の松田(旧姓片桐)有子さんから、コーラスについての楽しいお話しも予定しております。

会員の皆さん、お時間がありましたら、久しぶりに母校を訪問してみませんか。そして先輩・後輩たちとの楽しい集いに、ぜひご参加ください。

## 「クスノキの記念碑」除幕式

- 日時: 平成22年5月16日(日)午前10時より
- 場所: 南多摩高校正門 クスノキの前
- 立会: 黒須 隆一 あかね会会長  
常盤 正臣 100周年基金運営委員長  
小林 幹彦 南多摩高校校長

## 引き続き【あかね会総会】

- 時間: 午前10時30分頃~14時00分
- 場所: 南多摩高校
- 議題: 平成21年度決算報告・平成22年度予算審議
- 講演: 「ひびきあう」とって何?

講師 松田 有子さん(音楽家・昭和39年卒)

※懇親会: 昼食をとりながらの懇談会です

※同窓会会員の方は、どなたでも参加でき、会費は無料です

## 「クスノキの記念碑」建立と除幕式

5月16日に母校で

明治41年(1908)創立の東京府立第四高等女学校から東京都立南多摩高校、そして今年4月、新たに開校した八王子地区・中高一貫校の東京都立南多摩中等教育学校へとつながる100余年の歴史を、通学路から見守ってきた1本のクスノキがあります。

昭和20年(1945)8月2日未明の八王子空襲で一夜にして焼野原となった母校。焼け残ったのは創立者横川楳子の銅像と防火壁、金庫、棕櫚、焼け焦げ傷つけられたクスノキだけでした。しかし、翌年の春になると焦土と化した校庭の焼けたクスノキから若葉の芽が吹いて、見事に再生しました。それに感動し勇気づけられた当時の教職員や生徒は、校舎復興に全力を注ぎました。昭和21年(1946)3月1日には昭和天皇の行幸があり、ついに翌年に木造校舎が完成しました。

明治、大正、昭和、平成と、激動の母校の歴史を見つ



めてきたクスノキは、現在は大樹となってそびえ立ち、悠久たる伝統のシンボルとして、正門通路の脇から通学する生徒の成長を見守っています。

この度、母校100周年事業の一環として、このクスノキの不屈の精神を後世に受け継いでいくために、卒業生の100周年記念募金から「クスノキの記念碑」を建立、来る5月16日あかね会総会時に、学校へ寄贈するための除幕式を行うことになりました。

このクスノキの謂れを記念碑にするために、八王子空襲で焼野原になった当時学生だった「あかね会」の先輩方からの聞き取りや、当時のことを記事にして寄稿した文章、そして焼野原や昭和天皇行幸の貴重な写真などから、クスノキの謂れを忠実に記念碑に刻み込みました。それぞれ先輩の方々には、ご協力に感謝申し上げます。(事業担当 大澤 晃)

## 「広報協力金」ご協力のお願い

あかね会広報『美なみたま』2010年特別号は、母校の中高一貫校化、定時制の閉課程を節目に、創立100周年基金などを活用して、同窓会会員の住所判明者約19,000人に送付しております。

この度、あかね会活動と学校支援の充実をはかるため、同窓会の皆様方に「広報協力金」を募ることに

なりました。誠に恐縮ですが、ご賛同者は1口千円(なるべく2口以上)のご協力をよろしくお願い申し上げます。ご入金は同封の振込用紙で、最寄りの郵便局からお願いします。後日、ご芳名をあかね会ホームページに掲載させていただきます。振込用紙の「通信欄」に広報のご感想などお寄せいただくと幸いです。